

# データでみるJAのイメージ



「食料・農業・JAに関するアンケート調査(2020年度)」より

vol.6

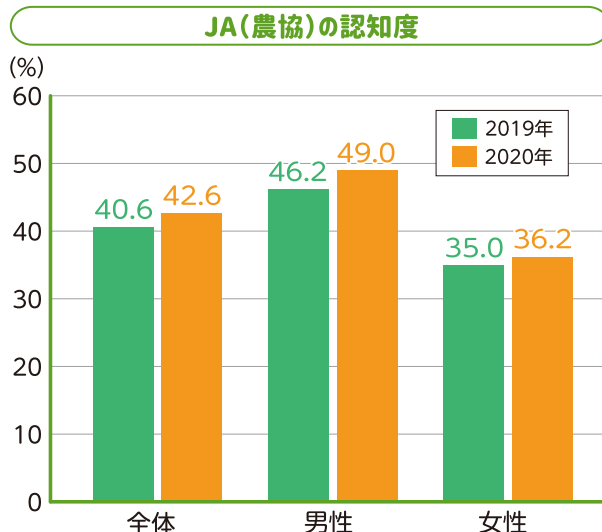


## JAに対する認知度が向上し、応援意識が高まっています

「食料・農業・JAに関するアンケート調査(2020年度)」によると、近年減少が続いていたJAに対する認知度が、男女ともに上昇しています。またJAの地域農業の振興や地域づくり活動において肯定的な意見の割合が増加しており、生活者の間で応援意識が高まっています。

### JAに対する認知度が上昇

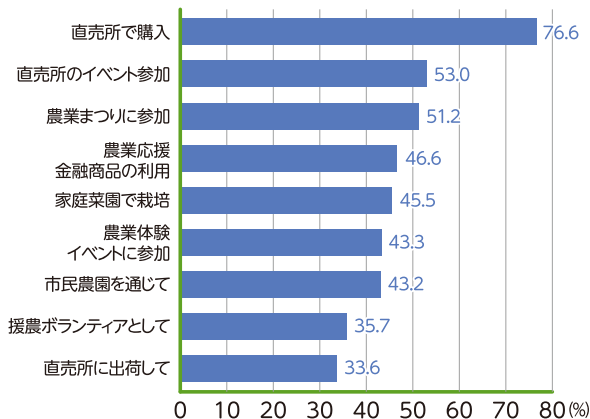
「JA(農協)に対してどの程度知っているか」という質問に対して、活動内容や事業内容を知っていると答えた人の割合は、前年度に比べ男女ともに上昇に転じました。JAの認知度は、ここ数年、減少が続いていましたが、2020年度は42.6%と2019年度の40.6%より2%増加しています。特に男性は50、60代、女性では40、50代で上昇幅が大きくなりました。一方で、JAを知る手段として1つもないと答えた人の割合は、20、30代の男性と、20代の女性で特に割合が高く、若年層とJAとの接点の確保・拡大が課題として表面化しています。



### 若年層で農業体験への関心高まる

JAが行う地域農業の振興や地域づくり活動の応援意識に対する肯定的意見は、「直売所などで地元農産物を購入して応援したい」が最も高く76.6%となりました。次いで、直売所のイベントや農業まつりに参加して応援したいなどの項目が続きます。中でも、家庭菜園や援農ボランティア、直売所出荷の項目は20～30代で肯定的意見の割合が高く、実際に農作業をして応援したいと考えている若年層が多いことが分かりました。

### JAの地域農業の振興や地域づくり活動で応援したい項目



JA全中は2011年から、食料・農業・JAに関する生活者の意識や行動についてアンケート調査を行っています。定点観測調査により、結果を比較することで、生活者の傾向を把握して事業に生かしていくことを目的としています。対象となるのは、日本全国の地域、性別、年代の異なる2,500人で、今回の調査期間は2020年11月27日から2020年12月3日の6日間です。



耕そう、大地と地域の未来。